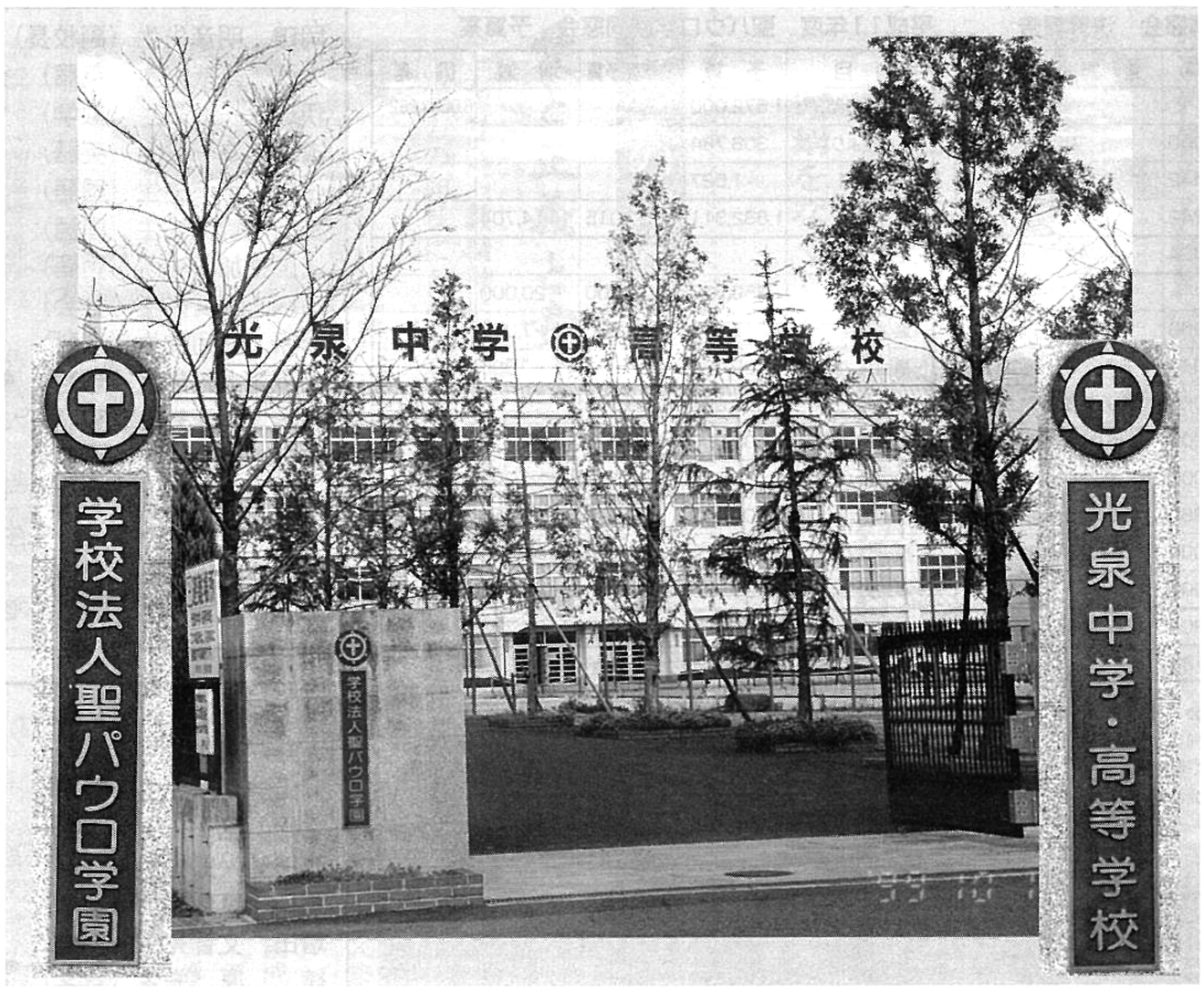
聖パウロ学園
同窓會會報

第 9 号

平成11年12月20日発行

発行者
聖パウロ学園内
同窓会事務局

〒525-0055
草津市野路町178
☎077-564-5600
FAX 077-564-5136



心のふるさと、光泉

理事長　山田　右

卒業生の皆様方におかれましてはますますご清勝のこととお喜び申し上げます。

光泉高校は来年（二〇〇〇年）三月末をもちまして創立満十二年になり、第十期生を送ることになります。石の上にも三年と言う命題がありまして、光泉の歴史は三年の四倍に当たる十二年の学校になりました。十年一昔よりも二年長い十二年の学校でありますし、それに卒業生の総数も二〇〇〇年三月を以て約二千人となります。若い学校と思っている間にもう創立以来十二年が経過致しまして卒業生の総数が約二千名なのですから、これは一つの大きな社会集団であります。心を一つにする人格の集まりであり、組織と言うことになります。光泉を応援する組織です。

光泉を卒業された同窓生の皆様方お一人お一人が光泉を心のふるさとして世の中にあっては光の泉となって生きて欲しいです。「福音」（ふくいん）とはキリスト教用語であり「幸福の便り」と言う意味です。それは神が人間の姿をとってこの世にお下りになった（神の受肉）救い主キリスト様の教えを総まとめにした書物、新約聖書の福音の精神であります。

同窓生の皆様方は福音の精神を光泉在学中に学ばれました。世の中にあっては、平和の使徒、平和を作り出す人になって下さるようお願いします。「光の泉」、「福音の光」、「平和の使徒」これが光泉教育の標語です。目標です。

卒業なさってからも光泉の卒業生であることを絶えず自覚して人々に幸せをもたらす人材になられるよう期待しております。努力して下さい。

光泉高校は毎年受験生が増加致しまして、平成十一年度の受験生は二千二百名でありました。定員は二百名ですので二百名でお断りしなければならないのですが、あまりひどいことも出来ませんので、現在は各学年二百六十名～二百七十名が在籍しております。只今、滋賀県ご当局に、定員増をお願いしている段階であります。卒業なさった学校が定員増をお願いしなければならない位、社会的に要望の高い学校になりつつあることは喜んでいただけると思います。定員増が認可されますように同窓生の皆様方の応援、ご支援をよろしくお願い致します。

契約期間満了もしくは学園の秩序を守るため、止む無くお辞めいただいた元の先生方と労働組合の方々のビラによりますと、光泉の中では大騒動が起こっていて、もはや正常な授業が行われていないかの如き、錯覚を起こされるでしょうが、ビラ配り等は外での活動でありまして、光泉の中には何の対立も争いも一切ありません。平穏無事に毎日の授業が行われ、教育成果をメキメキと上げつつありますことをご報告致します。

近年大きく変わったことが三つあります。それは(日)生徒のレベルが大変上がってきたこと、(月)教師のレベル教育力が大変向上してきたこと、(火)光泉教育が評価されて受験生が急増してきたことです。これからも卒業生の皆様にプライドを持っていただけるような光泉高校にするべく、教員・職員・保護者会が一致団結して頑張りますので、宜しくご支援、ご紹介賜りますようお願い申し上げます。

合掌

人間的な豊かさと強さを

会長　田代知子（2期生）
（旧姓伊藤）

月日の経つのは早いもので、同窓会々長の任をお引き受けしてから二年半が過ぎ、任期も残すところあと僅かとなりました。在任期間中には母校が創立十周年を迎え、同窓会々長として記念行事を無事とり行なうことができ、個人的にも思い出深いものとなったばかりか、十年の歴史の深さを改めて認識させられる場面でもありました。

振り返ってみると入学した九年前に比べて、近年の学校施設の充実や生徒の学力向上には目を見張るものがあり、卒業生として母校の躍進を大いに嬉しく思っております。今後とも継続発展されることを期待しています。一方で、ハード面の設備が整いつつある今日においては、人間教育（ソフト面）での充実を図る時期にさしかかってきていると言っても過言ではありません。来るべきこれからの新しい社会で、リーダーとして先頭に立って自ら改革を進めていけるような人材育成が急務です。母校の卒業生として、自分達の卒業した学校が物事の善悪の判断が的確にでき、生徒達の進むべき道を自信を持って示唆することのできるような教育現場であって欲しいものです。先生方におかれましては、生徒をひとりの人間として扱い、前向きな意見交換ができるような体制作りに尽力されることを切に希望します。

最後になりましたが、人間的な強さとは、人間的な弱さを如何に克服できるかと言うことにほかありません。自分ひとりだけで出来ることは限られています。人間的な弱さを克服するためにも、周囲から適切な助言をもらえるような人間関係の確立こそが必要なのではないでしょうか。光泉高校で学んだ若人たちが、学校生活を通じて人間的な豊かさ、優しさを自然と学び、強い人間に成長して社会に旅立ってくることを期待しています。

（東レ勤務）

情報センターとして

校長　小林冨三

去る八月八日に本校の同窓会の総会がひらかれた。例年のように瀬田アーバン・ホテルである。午前中は総会があり、田代会長の挨拶から予・決算などの報告があり、午後からは懇親会がひらかれた。今年は春に卒業した九期生が三十五人も参加してくれ、全体で六十名ほど、先生方も十一人も出席していただいた。年々盛大になっていくので嬉しいかぎりである。理事長先生も本校の発展の様子を話され卒業生諸君の活躍を称賛されていた。ますます発展していく本校に心からの支援を賜りたいものである。

クラブ活動が動きだした。バスケットボール部（男子）が夏の県民体育大会で見事準優勝を獲得した。日頃の厳しい練習の成果であり開校以来の快挙である。

テニス部も例年のように近畿大会に出場が決まり活躍が期待されている。

野球部も一・二年生大会では準優勝となり着々と実力を蓄積している。秋季大会では湖南ブロックで優勝しシード権を獲得した。いよいよ九月十九日、二時から守山球場で栗東高と対戦。そして勝利してまず一勝を果たした。

更に今まで山田理事長先生が園長をなさっている瀬田カトリック幼稚園が本学園、聖パウロ学園に併合されることとなった。そして、光泉瀬田幼稚園と改称し、本学園の一翼を担うこととなった。来る九月二十三日には本校で運動会が開かれ、又十一月七日のバザーにも初参加を願っている。

光泉中・高校では今、変革期にある。創立十周年を節目として新たな飛躍を遂げようとしている。

平成十年に高等部で類型を整理して、Ⅰ類普通コース、Ⅱ類を特進コース、Ⅲ類を理数コースとして新しくスタートした。

中学部では平成十一年度からオプティマ（特進）とグランデ（標準）に中一から希望を中心に編成している。平成十二年度からは高等部も三類型がととのい、中学部もクラス分けが完了することとなる。平成十三年には中・高の連携をどうすすめて行くか、中高一貫六ケ年教育プランともあわせて検討しているところである。ちょうど教育課程の改訂の時、平成十四年から中学部のスタート、平成十五年から高校のスタート、日本全体の教育が動きだすこととなる。この時にあって、魅力ある私学教育をどう構築するか、本校の将来ともにらみあわせ見通しのあるヴィジョンの実践にかからねばなるまい。

卒業生の諸君が大学や職場で学び働くなかで、母校光泉の発展を期待していただいていることと思う時、ここがまさに正念場、慎重で且大胆な対応がせまられている。

同窓会が相互の情報センターとなると共に同窓生が本校のPRに一役買ってほしいと思っている。「なんぼきれいな案内やポスターができても、卒業生の一言こそ最も大切だ」と。

口コミで「がんばって、おられますよ」と云ってもらうことが唯一の重要なPRであると信じている。

同窓生諸君の健闘を祈るものである。来年又集まろう！　新しい情報をもって。